



TITLE:

MONITORING AND EVALUATION SYSTEMS
FOR URBAN PLANNING AND DEVELOPMENT
- THE CASE OF HANOI MASTER PLAN(
Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

Quyen, Thi Lan Phuong

CITATION:

Quyen, Thi Lan Phuong. MONITORING AND EVALUATION SYSTEMS FOR URBAN PLANNING AND DEVELOPMENT - THE CASE OF HANOI MASTER PLAN. 京都大学, 2017, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2017-09-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k20685>

RIGHT:

京都大学	博士 (工 学)	氏名	QUYEN THI LAN PHUONG
論文題目	MONITORING AND EVALUATION SYSTEMS FOR URBAN PLANNING AND DEVELOPMENT - THE CASE OF HANOI MASTER PLAN (都市地域開発計画のモニタリング評価システムに関する研究 - ハノイマスタープランへの適用)		
<p>(論文内容の要旨)</p> <p>本論文は都市地域計画の進捗状況を適切に管理するためのモニタリング評価システムを開発すると共に、ハノイ都市圏のマスタープランに適用してシステムの有効性を検証したものであり以下の7つの章で構成されている。</p> <p>第1章は序論であり、本論文の基本的な考え方を整理している。経済発展著しいベトナムを対象として、都市計画の中長期的なビジョンを示す都市計画マスタープランの持つ意義をとりまとめ、マスタープランの策定や進捗を適切に管理するモニタリング評価システムを構築することの重要性を明確にするとともに、評価システムが満たすべき必要要件について整理している。さらに、本論文が対象とする研究範囲と研究目的を明確にした上で、第2章以降の論文構成について説明している。</p> <p>第2章では、本論文のテーマと大きな関係のある都市地域開発計画の評価システムについて体系的なレビューを行っている。特に、ロジックモデルの構築や重要業績指標 (Key performance indicator=KPI) の設定を通じたモニタリング評価システムに焦点をあてて、既往研究において得られている知見をとりまとめると共にその特徴を整理して、以降の章において提案するモニタリング評価システムの有用性についてとりまとめ、本論文の持つ独創性と意義を明確にしている。</p> <p>第3章では、ベトナム・ハノイ都市圏を対象として策定されたハノイ都市圏マスタープランについてとりまとめている。これまでの都市開発の歴史を体系的に整理し、策定されていたマスタープランや開発計画との整合性についてとりまとめるとともに、実際に行われてきた都市地域開発が必ずしも事前に計画されていた開発計画と整合的ではないことを指摘している。特に、実際に行われた都市地域整備の結果を適切に評価する方法論がないために、計画から行動に至る PDCA サイクルのマネジメントが適切に運用されてこなかったことについて言及している。本章においてとりまとめた都市地域開発計画における課題とその対応策は、次章以降において提案するモニタリング評価システムの有用性を示すものである。</p> <p>第4章では、都市地域開発計画分野におけるモニタリング評価システムの構成について説明している。都市地域開発計画における PDCA サイクルを適切にまわすためには、1. 都市開発プロジェクト効果の定量的評価、2. 計画過程の PDCA サイクル管理、3. 多様なステークホルダーを相互に関連させること、4. 関係するデータの適切なマネジメント、という4つの要件を満たす、モニタリング評価システムを構築する必要があることを指摘している。さらに、構築するモニタリング評価システムを活用して PDCA サイクルを推進する手順を整理すると共に、ベンチマーキング手法によ</p>			

京都大学	博士（工学）	氏名	QUYEN THI LAN PHUONG
<p>って計画時における目標設定と実際に観察される結果とを比較して適切な計画の変更を提案することができるという、モニタリング評価システムのもつ意義についてとりまとめている。</p> <p>第5章では、第4章で提案したモニタリング評価システムを、ハノイ都市圏における実際のマスタープラン策定プロセスに適用した結果を示している。2030年、2050年を念頭において2011年に策定されたハノイ都市圏マスタープランの概要を整理すると共に、そこで設定されている計画目標からその達成度を評価するKPIの設定に関する考え方についてとりまとめている。マスタープランにおいて提示されている都市地域開発プロジェクトとマスタープラン計画目標との関係を論理的に説明するロジックモデルを構築すると共に、入手可能な統計データを用いて計画の達成度を適切に評価するKPIを設定している。またマスタープランの策定や遂行に関わる多様なステークホルダーを体系的にとりまとめ、それぞれの政策や達成目標をどの主体が責任を持って管理すべきかについて整理している。</p> <p>第6章では、モニタリング評価システムにおいて設定したKPIを用いて、計画時の設定目標を達成するために必要なプロジェクトを選択するためのベンチマーキング手法を具体的に展開している。行政主体による主観的な設定目標に加えて、都市地域開発プロジェクト実施による効果を理論モデルを用いて客観的に導出することが重要であることを指摘し、応用都市経済モデルを用いて都市交通施設の建設や副都心開発といったプロジェクト実施により想定される効果を具体的に求めている。さらに、ベンチマーキング手法により実際に観測されたKPIとKPIの設定目標値との差を比較認識してその要因を検討し、具体的な都市地域開発計画の変更手法を提案することに成功している。</p> <p>第7章は結論であり、本論文で得られた成果について要約している。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、都市地域計画の進捗状況を適切に管理するためのモニタリング評価システムを開発すると共に、ハノイ都市圏のマスタープランに適用してシステムの有効性を検証したものであり、具体的に以下のような知見を得ている。

1. ベトナム・ハノイ都市圏を対象とした都市地域開発計画マスタープラン策定の経緯と現状を体系的にとりまとめ、その効果と課題について整理している。マスタープラン内でうたわれている都市開発事業間の調整がうまくとられていないこと、都市開発事業の効果を定量的に把握するための方法論が開発されていないことを指摘するとともに、マスタープラン全体をモニタリング・評価するためのツールの開発が必要不可欠であることに言及している。
2. 都市地域開発分野における総合計画の進捗状況をモニタリングし、必要に応じて推進するプロジェクトの更新・変更を提案するモニタリング評価システムを開発している。開発したシステムを用いて都市地域開発分野における PDCA サイクルを推進する方法論を提示している。
3. ハノイ都市圏のマスタープランを対象として開発したシステムの有効性を実証的に検証している。衛星都市開発プロジェクトを事例として、プロジェクトに生じる効果を応用都市経済モデルを用いて推計すると共に、モニタリングされる人口・土地利用データとのギャップを計測し、プロジェクトの進め方に関する改良策を提案するという、都市開発マネジメントの PDCA サイクルの実践を行っている。

本論文はロジックモデルや応用都市経済モデルから構成される都市地域計画のモニタリング評価システムを開発し、ハノイ都市圏マスタープランに適用して衛星都市開発プロジェクトに関するギャップ分析を行い、開発したシステムの有効性を検証したものであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成29年8月24日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行って、申請者が博士後期課程学位取得基準を満たしていることを確認し、合格と認めた。